

【別添】

第2回～第3回
専門部会議事録

令和3年度第2回芽室町総合計画審議会（専門部会 AB 合同）議事録

令和3年8月4日

■出席委員（17名）

嶋野部会長、西村副部会長、鈴木副部会長、大塚委員、片桐委員、児玉委員、高橋（仁）委員、高橋（広）委員、花岡委員、黒田委員、小林委員、櫻井委員、須崎委員、須藤委員、高橋（圭）委員、高橋（好）委員、山田委員

■欠席委員（3名）

坂本委員、佐藤委員、岡田委員

■事務局・説明員

石田政策推進課長、村上主任、佐藤主事、角屋主事

佐々木総務課長、梅森危機対策係長、西田魅力創造課長、佐藤都市経営課長、齋藤都市経営係長、菅原住民税務課長

■開会

■部会長・グループ長選任

委員の互選により部会長を嶋野委員、A グループ長を西村委員、B グループ長を鈴木委員と決定

■部会長・グループ長挨拶

■調査事項

①徹底した情報共有と町民参加の促進

委員

LINE の利用により、情報が早くて助かっている。

一方で、実際に年配の方から声があがっているが、オンラインに不慣れな方との情報の格差が気になっている。このことから、広報誌の他に、もっとすまいるボードの活用も考えられるのではないか。災害時（大雨被害があった時）に情報の収集が難しく、すまいるボードが緊急時にも使えたらよいと思う。

また、私が町民活動支援センターで働いていて感じることは、様々な活動している人たちからの情報発信や掲示できる場がない。そういった意味でも、アナログ的な方法が残ればいいと思っている。

他には、コロナ禍では難しいと思うが、対面で情報公開できる場がテーマ別であればという声がある。

政策推進課長

町では LINE や Facebook など SNS を積極的に利用しているが、SNS を利用できない町民がいるのも承知している。このことから、アナログの手法も併用している。基本は広報誌と考えているが、現状、すまいるボードは上手に活用できていないとは思う。今いただいた意見を踏まえて、災害時に役に立つのは間違いないので検討していきたい。

対面での情報共有もご意見いただいたとおり必要だと考えている。先日 YouTube で実施しためむろ未来ミーティングでは、約70人に見ていただいた。通常（対面で）めむろ未来ミーティングを実施しても20人程度の参加であり、今回の70人というのは多い方。非対面型も引き続き強化をしていくが、YouTube などネットの視聴についても色々な考え方があるので、対面での手法も残していきたいと考えている。

委員

コロナ関連の記載があるが、HP のアクセス数の増加はコロナの影響ではないか。コロナ関連を除いたアクセス数の把握は難しいと思うが、前進した C と記載されているが、コロナを除いた部分のまちづくりの参加について、前進した点について教えてください。

政策推進課長

HP アクセス数が増えたのはコロナの影響であると分析している。前進した点として、LINE の公式アカウントを開設し、コロナ関連情報の発信に加え、道路の損傷を通報できるようになった。今検討していることは、LINE を用いた粗大ごみの受付を可能とするもの。また、農村部のブロードバンド化も昨年度から計画して進んでおり、これらのことから前進したと判断した。

委員

西村委員の意見に近いが、最近のまちの動きとして、非接触型・非対面型の手段が多くなっており、高齢者にとっては疎外感があるという話も聞く。非接触型・非対面型の手段というのはコロナの時代でなくても大切なことだと思うが、町民の多くの方がまちづくりなどの意識を高く持つには、対面式の会議は重要だと感じている。感染対策などに注意しながら、対面式も進めていくという方法も考えてほしい。

政策推進課長

一年前はコロナがどういうものかというのがわからなく、審議会やめむろ未来ミーティングなどは中止した。しかし、一年経って、まだ不明点もあるが、距離をとり、パネルを置くなど注意して開催すれば大きな問題にはならないだろう判断して本審議会も開催した。引き続き、感染対策に注意しながら、色々な方からまちづくりに意見を出せるような環境をつくっていきたい。

委員

1点目、成果指標①は策定時と比較して減少しており、要因の1つとして住民意識調査の項目数を減らしたことは理解しているが、策定時に設定した目標に対して、実績値で進捗を評価することは難しいと思う。このことから、例えば、策定時の「どちらでもない」のパーセンテージを折半するなど操作を行えば、1つの仮定（仮想）の目標近似値になり、評価しやすいかと思う。提案ではないが、教えていただければ判断基準になるのではないかと思う。

2点目、HPサイト訪問者など役場HP解析ツールは入っているのか。訪問者はどの世代が多いか、すまいるのQRコードから訪問しているなど、解析でわかっていることがあれば教えてほしい。

政策推進課長

1点目は、策定のときの見込みが甘かった。特に策定時の数字が高いものは参考にならない。解決策としてはなかなかなく、トレンド（実績値の推移）をみていただくのが良いと考えている。このことから成果指標①は横ばいだと考えている。

2点目のHPに関する分析はできている。手元にデータがないので紹介できないが、例えば、コロナワクチン接種の受付予約を開始した際、75歳以上のアクセス数がのびた。LINEからHPにアクセスするケースが多くあった。実際に高齢者でもLINEを利用した予約もあり、高齢者でも利用できるようなアピールも続けていきたい。

委員

GIGAスクール構想について、小中学校で1人1台パソコンをということで実際に使用が始まっているが、コロナ関連で学校に行けなかった期間などすごく便利に感じた。その後、授業にもたくさん取り入れていることや、学校に行けない子供たちに対しても授業の格差が起きないようにタブレットで勉強を進めると聞いている。子供が持ち帰るという背景から、故障が起きた場合の補償はどうなっているのかという声を耳にしたり、実際にコロナで家にタブレットを持ち帰るときに「親が学校に取りに来てください」という指示があり親が学校に取りに行つた。親が常に対応するのは難しいと思うし、いつでも自宅でタブレットを使用した勉強ができるようにGIGAスクール構想があると思うため、専用の持ち運びケースを渡すとか、補償内容を皆さんに伝えるなど情報提供があると保護者としても使用する者としても安心してGIGAスクール構想を見守れると思うので、もし何かあればお話を聞かせてもらいたい。

政策推進課長

いただいた意見は教育委員会に伝え、最終的には何らかの形でフィードバックしたい。

委員

情報共有ということで茅室町公式 LINE が始まったが、以前、大成地区で道路への油の漏洩による通行止めが LINE で発信され、タイムリーでいいなと思った。その日は通行止めの連絡だけで解除の連絡がなく、いつから通れるのかわからなかつたが、翌日通勤時には既に通行止めは解除されていた。LINE は通勤後の朝9時に解除されたと出していた。LINE はタイムリーなのがメリットであり、使用するのであれば、メリットを生かしていくべきだと感じた。また、先日のめむろ未来ミーティングにおいても、YouTube はアーカイブ配信もメリットだと思う。当日は仕事で見れず、アーカイブ見つからなかつたので、メリットというのを十二分にもっと使うべきでは。

政策推進課長

道路の通行止めの LINE 配信については、6月17日の18時34分に通行止めを配信して、翌日の9時15分に解除の配信をした。判断が正しいかは別として、その時の判断として、LINE は音や振動が出るプッシュ型といわれる情報配信方法であることから、夜に配信してよいのかという観点から翌朝配信した。まだ町としてもルールが十分整理できていない。夜流していいのかというのが、町としても整理したい。アーカイブも整理できていないので、検討したい。

部会長

評価に移る。担当課評価はC。経営戦略会議評価もC。専門部会の評価について、何か意見がなければCでよろしいか。

(異議なし)

それではCと評価する。

②住民自治の実現と地域の活力の維持

委員

成果指標①住民意識調査で40%となっている。市街地であれば町内会活動や農村であれば行政区を指しているのか。

魅力創造課長

アンケートを受けた方の捉え方によっては多少変わってくるかとは思うが、私たちは一番身近である地域の活動として、町内会活動や行政区活動と考えている。

委員

このアンケートは答えにくい質問だと思う。町内会以外にもいろいろな活動がある。教育委員会のコミュニティスクールのボランティアなども活発にやっている。どの範囲が地域の活動になるのか。個人でごみ拾いを行った場合や、団体として参加するものも地域の活動になるのかがもう少しわかるといいのかなど。活発に活動されている方が多いと思っているが、そういった人が答えやすい質問だと良いと思う。

魅力創造課長

質問の中では括弧書きでまちよりも身近な町内会・行政区などの範囲とは入れてはいるが、やはり捉え方で次第となっており細かくは書いていないので、検討させていただきたい。

委員

町内会の未加入世帯対策が必要であると書かれている。役場ではどのような対策を考えているのか。

魅力創造課長

必ず解決するという策が見つかっていないのが現状。芽室には芽室なりの歴史であったり風習なり習慣があるので、町内会連合会や町民活動支援センターと協議しながら芽室らしいやり方で対策をとっていけたらと考えている。

委員

他町に住んでいて町内会の役員をしているが、同じように未加入率をどうするか、町内会から抜けていることをどうするのかという課題がある。回覧板の回数を減らすことや班長の負担を減らすことなど恒常的ではなく削減のような形をとっている。その中で芽室町はLINEを用いた町内会アンケートを実施し、皆さんに広く公開していることに対して進んでいて、町民と向き合っていると感じた。

また、住民意識調査を見たが、自分の意見を持っている人が多く関心度が高い。その中で、住んでいる年数によって回答が変わってくると感じた。現在の抽出方法は、年齢と性別だけで無作為抽出しているということでいいか。

政策推進課長

おっしゃるとおり、年齢と性別だけで2,000人を無作為抽出している。

部会長

コロナで苦戦したところとは思うので経営戦略会議評価のとおり、外部評価もDでよいか。

(意義なし)

ではDと評価する。

③国際・地域間交流の推進

委員

施策マネジメントシート内3.施策の達成状況(1)施策の達成度とその考察②2022年度の目標達成見込みの根拠(理由)欄において、「国内の友好都市に関して成果を高める新たな方

策を想定している」とあるが、具体的にはどのような取組か。

魅力創造課長

揖斐川町に関して、今までは子どもの派遣交流やJAの収穫感謝祭で柿等を売ることぐらいであった。今年度は職員の相互派遣によって揖斐川町の職員を魅力創造課に配置しており、揖斐川町の物産を多く売ろうと思っている。今後、観光物産協会や町内のイベントの出品を検討している。ただ単に商品を知ってもらうだけでなく、姉妹都市間で関係人口を増やすことも考えている。

委員

施策マネジメントシート内Ⅰ.施策の方針と成果指標の意図欄において、「異なる文化に触れ、情報を得ることによって他地域の歴史・文化、まちづくりの手法などを学ぶことができる」とあるが、揖斐川町やトレーシーなど友好都市が結ばれたきっかけやどのような交流があったのかなどの歴史がわかる機会があるといいなと思う。トレーシー市交流協会では、物品を集めて展示していた。そういう機会がまちとしてあれば教えてもらいたい。

魅力創造課長

小学生を対象とした友好都市間の交流の際には、それぞれの歴史や文化をしっかりと伝えている。そして職員もしっかり学んだ上で、まちづくりにどうつなげていくかを考えて行っている。ただ、全町民にまではできていないため、新たな方策というところで、過去の歴史やどうつなげたいのか、どうしたいのかを意図としながら進めていきたい。

委員

ねんりんに歴史について資料は置いているか。

魅力創造課長

ねんりんにそのような資料はない。ただ、揖斐川町との交流は、岐阜県からの移住者が多かつたというところから歴史的な鉄瓶や家財道具などがあるかもしれない。

委員

娘が揖斐川に行かせていただき、貴重な体験をした。参加は人数制限があったが、コロナ禍だからこそ、多くの子どもが揖斐川を体験できるような企画があってもいいのでは。

魅力創造課長

小学生を対象とした友好都市との交流は、コロナ禍により直近2年間は実施できていない。今後、交流経験がない小学生が増えてしまうことも課題であり、小学生向けの企画についても検

討したい。

委員

小学生を対象とした友好都市との交流は、実際に経験した子どもたちにしか感覚や意識がない。学校の授業で小学生全員が友好都市について学ぶことで、更に次の世代にも話しえ、広めていくことができると思う。現在、学校の授業等で友好都市について学ぶ機会があるのか確認したい。

魅力創造課長

正確には答えられないが、現在学校の授業ではやっていないと思う。おっしゃるとおり、体験した子しか感動や思いがなく、伝える機会もない。コロナ禍で新たな方法として、動画として映像を残すことが有効な手段である。また、交流を経験した小学生の報告の機会を設けて、さらに動画をとて広く伝えるなど、新たなやり方を考えてやらなければならない。友好都市を紹介する動画を作るの手段としてあるかもしれない。

委員

昨年度の審議会のときに、広尾町の活動が停滞しているという話があつたが、今の話し合いでも広尾町が置き去りにされているように感じる。

魅力創造課長

広尾町は今年35周年であり、新たな取り組みを協議・検討している。案としては、お互いのまちの食材を使った給食の実施を検討している。また、ふるさと納税でなにか協力してできないかと検討している。売ることが目的ではなく、広尾町とは友好都市であることを知ってもらいたい。

部会長

評価について意見あるか。

(特になし)

特に意見がなければ経営戦略会議評価同様Dでよろしいか。

(異議なし)

D評価とする。

④効果的・効率的な行政運営

委員

成果指標②職員アンケートは、芽室町役場独自の質問項目なのか。また、他の自治体と項目が共通していて、比較はできるのか。職員アンケートの内容と差し支えなければ特筆すべき内容あれば教えていただきたい。

総務課長

質問項目は芽室町独自のもので、全職員に対して実施した。内容は、今の仕事に満足しているかというダイレクトなもの。特筆すべきこととしては難しいが、若い職員はクールでドライなイメージがあったが、私の想像よりも自分の仕事に対してプライドややりがいをもった職員が多いと感じた。

委員

職員満足度のこと、マネジメントシート内、3. 施策の達成状況(1)施策の達成度とその考察②の根拠の欄において「職員満足度については、目標値との乖離が大きいことから」とあるが、今の説明(佐々木総務課長)を聞くと、若い人は満足しているのかなと感じた。コメントと答弁が乖離されているのではないか。

また、アンケート、住民意識調査両方の傾向として、少しずつ下がっている。どのような印象を受けているか。

総務課長

職員満足度について、私の説明の仕方がまちがっていたのかもしれないが、全職員の満足度はマネジメントシート記載(2020年度実績)のとおり。特筆すべきこととして、全職員ではなく、若い世代について私の中での特筆すべきと感じたことを述べた。

政策推進課長

住民意識調査について、私の個人的な見解も入ると思うが、私どもは町に対する評価をお願いしたいところであるが、政治全体の動きに左右される傾向がある。どこまでの仕事が町なのか、道なのか、国なのかというのがなかなか理解しづらい部分である。一般的に政治への不満がある時は、過去の経過を見ても数字は下がる傾向がある。だからいいというわけではないが、そういう傾向があるということをご理解いただきたい。

また、成果指標③「町の行政サービスに満足している町民の割合」については、下がってはいるが、2~3ポイントは誤差の範囲と認識している。ただ、上げたいという意識はある。

委員

各地のコミセンが今後どうなっていくのか、シニア世代で話題となっている。シニア世代にとつては集まる場として活用している現状がある。高齢者支援課では介護予防のためにコミセンを利用した取り組みを推進している。そういうたた役場の中で、他の課と問題の共有をどのようにしているのか。また、今後、どのように計画が進んでいくのかを2点確認したい。私が20年後70代になったときに、コミセンに集まるかは想像がつかないが、今の70代80代にとっては必要な場所だと感じている。

都市経営課長

都市経営課では公共施設の維持管理を担当している。その中で地域の集会施設の再整備計画において、市街地と農村部の建て替えを並行的に進めている。今は農村部を中心として進めているが、市街地の西地区において、古い施設が点在している施設を1か所に集約して、古い建物を廃止した。市街地も一定程度の考えをもって進める。

昨年からコロナの関係で地域に入していくことができていない。今年に入って、少しずつ町内会の皆さんと話し合いを進めていて、中心部と東地区の施設をどうしていくかの話が始まったところ。どうなるのかはまだ見えていない。地域の方と話し合いを進めていく中で小さいながらも必要なのか、大きいのが1つあったらいいのか進めていきたい。また、コミセンは高齢者や若い方の使い方が色々あるため、関係課と隨時意見交換して進めている。

委員

職員アンケートについて、職員の年代別の統計もあるのか。年代別の分析があれば確認したい。

総務課長

分析はしているが、世代間に極端な差はないと認識している。

委員

私の経験から、職場で新しい取り組みを始めようとすると、長年勤める職員は抵抗を感じる場合がある。芽室町役場はより良くしようと新しい働きかけをしていると思うが、変化を嫌う職員にとっては、職員満足度が低くなることもある。年代別の分析から長年勤める職員の満足度についても注意していく必要を感じた。

委員

施策マネジメントシート内、3. 施策の達成状況(1)施策の達成度とその考察②の根拠欄にて、「職員満足度については、目標値との乖離が大きいことから、新たな取り組みが必要である」とあるが、どのような取り組みをしようとしているのか、現状検討していることがあれば教えてください。

総務課長

私が30代の頃は、職員提案制度が活発だった。今はそういう動きがないが、職員はなにか新しいことをやりたいなど変化を望んでいるはずなので、活発化させるような取り組みを検討している。

部会長

評価について意見あるか。

(特になし)

特に意見なければ経営戦略会議評価と同様Cでよろしいか。

(異議なし)

C評価とする。

⑤健全な財政運営

委員

成果指標③(町税徴収率)は、十勝管内の他自治体と比べて優秀という見解でよいか?

住民税務課長

全道規模では144町村ある。令和元年度の順位は21番目。十勝管内は他の管内より徴収率が高い地域。十勝管内だと19市町村のうち8番目となっている。

委員

数字の見方について。成果指標②(健全化判断比率)は、実質公債費比率において2022年度の目標を17.0%未満にすることで、将来負担比率が50.0%未満になることが理想としているが、2021年度予想を見ると実質公債費比率のみが目標達成されている。この関係については、どういう風に数字を読んだらいいか?

政策推進課長

実質公債費比率はその年の財政規模に対する借金。将来負担比率は将来も含めた借金。つまり、単年度では目標は達成しているが、将来の借金も含めると目標を達成できていない。将来負担比率が大きい理由として、役場新庁舎と哺育育成施設の費用により借金が大きく増えたため。

委員

成果指標③(徴収率)について、仮に1ポイント上がった場合、町全体の歳入に対する比率はどのくらいになるのか?金額的に大きいことなのか。

住民税務課長

徴収率の計算は、調定額が30億円。30億円のうち99.2%を徴収している。

政策推進課長

年によるが全体の歳入に対する割合は110億円ほど。その内の30億円が税収。1ポイントあがったら3000万程になる。

部会長

評価について意見あるか。

(特になし)

特にご意見なければ経営戦略会議同様Dとしてよろしいか。

(異議なし)

D評価とする。

⑥親切・便利な行政サービスの推進

委員

新庁舎になり、利用しやすくなると思っていたが、不便なところも出てきているという話を耳にする。例えば、カウンターが高い、手荷物を置く場所がない、公衆電話がない、パンフレット(ペーパー)などがない。また、嵐山利用する際にパンフレットないかと照会したが、HP見てくださいと言われた。不便さが目に付く印象がある。町民の意見がどの程度届いているのか。

総務課長

新庁舎に対するご意見は、カウンターの高さという物理的な意見の他、3階のスペース利用についてなどのご意見もいただいている。現在、新庁舎利用のルールの整理を行っている。予定では本年9月1日に向けて検討している。今後も使いやすい役場を目指してルールを作っていく。

魅力創造課長

嵐山については、新しくなったこともあり、まだ新しいパンフレットの印刷かけていない。今はデジタル媒体で資料(データ)が納品されるため、それを印刷することになると思うが、デジタルを中心に考えている。お客様から照会があった時には、印刷して対応すればよかったと思うが、現場の担当と連携をとって対応していきたい。

委員

この施策の成果指標は、住民意識調査の結果(客観的な評価)となっている。住民意識調査で「満足していない」などのコメントとして、職員の電話・窓口対応など職員のサービス面でのコメントが多い印象。しかし、マネジメントシート内6. 経営戦略会議(庁内評価)の評価コメントは新庁舎となったことによる物理的な変化かつ主観的であり、的外れなコメントだと思う。コメントするならば、「職員のサービス向上に努める」などになるのでは。質問ではなく意見。

政策推進課長

意見として承る。補足すると、住民意識調査は12月15日から1月15日まで実施しているため、

新庁舎のことはあまり反映されていない。経営戦略会議の中で、今後このようなことが出てくるのはないかということでコメントしている。

委員

新庁舎3階のフリースペースのルール作りについて。娘が友達と3階のフリースペースに行こうと役場へ行ったが、入りづらくて行けなかった。町民誰もが利用しやすいルール作りをしてほしい。

総務課長

おっしゃるとおりだと思う。ルールを決めるにあたっては、職員だけの意見だけでなく、めむろーどや公民館などを利用している子どもたちの意見も反映させていきたいと思う。役場自体が入りづらいと思うが、活用しやすいルール作りを進めていきたい。

委員

新庁舎になってから、職員はレベルの高い仕事をしなければならない構造だと思う。旧庁舎と比べて、全員での接客が必要。民間だと対応1つ悪いと買わない、行かないとなるが、役場は対応悪くても、町民は用事のために行かなければならない。職員にとっては、なんのために接客に力を入れるのかが難しい職場。そういった中でも親切便利な行政サービスを掲げているのであれば、職員のスキルアップが非常に求められる職場になったのではないか。今回の評価では、新庁舎は反映されていないが、今後は新庁舎も反映されていく。ハード面がよくなつたのであれば、ソフト面も現状維持ではなく向上していくことが必要だと思う。次回はC評価を期待する。

委員

新庁舎になってから、「声をかけにくい」や「誰に声をかけたらいいかわからない」という声を聞く。意見として、ベルや担当者呼び出しボタン等を設置するなどしてはどうか。

総務課長

意見として承る。まずは職員がカウンターに来たお客様に気づけるかという職員の意識付けが重要だと考える。私も先輩職員からは、町民は仕方ないから役場くると教えられた。職員の意識付けを徹底していきたい。

委員

判断基準について、成果指標①は向上、目標も達成。成果指標②も落ちてはいるが目標は達成。成果指標は変化がないということで担当評価D、経営戦略会議評価Dとなっている。これから評価を進めるにあたって、施策によっては目標達成していないのにCであるとか、次回以降の判断基準として大きくぶれる。本施策で評価Dとなった数値以外のものを教えてほしい。

政策推進課長

進捗結果は前期実施計画と比較してどうなったか。本施策は前期実施計画策定時と比較すると数字は増えていないため、C ではなく維持したということで D と判断した。ただし、皆様が例えば、数字が維持されていることは前進だということで C と評価されても全く問題はない。町の評価と皆様がどう評価するかは別。

部会長

経営戦略会議評価に影響されることが多いが、反対意見等がないのであれば、D としてよろしいか。

(意義なし)

D評価とする。

部会長

以上で本日の議事が全て終了した。今後のスケジュールについて、事務局より説明をお願いする。

事務局

資料に沿って説明。

部会長

今の説明に関して何か質問や意見はあるか。

(質問なし)

次回からは、AグループBグループ分かれて開催となり、今回より少人数であることから話しやすい環境になると思う。それでも人前で話しすることが苦手な方は、事務局に事前に質問していただくのが良いかと思う。

それでは、これで本日の専門部会を終了する。

令和3年度第3回芽室町総合計画専門部会（専門部会A）議事録

令和3年8月11日（水）18:30～20:30

役場地下5・6会議室

■出席委員（8名）

大塚委員、片桐委員、児玉委員、坂本委員、高橋（仁）委員、高橋（広）委員、西村委員、花岡委員

■欠席委員（2名）

佐藤委員、嶋野委員

■事務局・説明員

佐々木政策推進課長補佐、角屋政策調整係主事

有澤教育推進課長、清末課長補佐、金須教育総務係長、橋本教育推進係長

日下生涯学習課長、藤澤図書館長、村島社会教育係長、上田スポーツ振興係長

■開会

■グループ長挨拶

■報告

第2回専門部会で回答できなかった質問への返答。

教育推進係長

実際にコロナウイルス感染症の影響で一度タブレットを親が学校に取りに行った事案については今年度の芽室西中学校においてクラスターが発生した時のことだと思われるが、この場合は生徒が濃厚接触者として、自宅での経過観察となっていたので保護者の方が取りに来るという形となった。今後日常的な持ち帰りとなった場合には生徒自身が持ち帰ることを想定している。専用の持ち運びケースの配布についてだが、芽室町で導入したタブレット本体は頑丈な造りとなっており、ある程度の高さから落下しても破損しない造りになっている。また、持ち運びについてはランドセルやカバンに入れて持ち運ぶことを想定しているので現段階では持ち運びカバンの配布は考えていない。補償内容については校内で使用した場合の破損については学校備品と同様に学校費用で修繕を行う形である。タブレットの持ち運びについては現在持ち運び時期も含めて教育委員会で話し合っている。持ち運びした際の故障についての補償も検討している。補償内容が決定次第保護者に連絡する。

委員

小学一年生をはじめ低学年がタブレットを持つには結構重いのではないか。また、学校

のカバンには学校の道具も入っているのでタブレットを入れるのは厳しいと思う。今回のwi-fi接続確認の時にはスーパーの袋で持ち帰っている人もいた。頑丈といつても壊れないわけではないので袋や持ち帰りバックの斡旋を学校か町で考えてほしい。

教育推進課長

学校の先生とはタブレットの重さによる低学年の不安について話し合っている。タブレットが重いということは丈夫ということで、タオル等でタブレットを包んで学校バックに入れる方が、バックで片手をふさぐよりもデジタル教科書化で学校バックの中身が軽量化されると予想されており、良いのではないかという話で協議が進んでいる。持ち運びバックの配布も考えたが、手をふさぐ不安やタブレット本体の壊れにくさからも配布は考えていない。手をふさがない対策を今後とも考えていきたい。

■議事

①学校教育の充実

【事前質問】

成果指標となる「全国学力・学習状況調査」の設問について、実際の設問を見ることはできないのかについて

教育推進係長

実際の資料を配布し、説明。

委員

成果指標設定の考え方で「豊かな心」とあり、成果指標②「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合とあるが。どうしてこの成果指標が豊かな心につながるのか疑問である。また、7割以上がよいところがあると回答しているが、逆に当てはまらないと回答している人はどのくらいいるのか。

教育推進係長

4当てはまらないと回答した生徒の割合は4.93%である。

委員

芽室小学校4年生は夏休みにタブレットの持ち帰りをしていると聞いたが、子供たちがタブレットを持ち帰って、全員の親がタブレットの使い方を教えることができる環境なのか。

教育推進課長

夏休みにタブレットの持ち帰りを行っている認識はない。芽室西中学校以外で自宅でのタブレット接続確認を全児童対象に行った。おそらくその持ち帰りのことではないか。家庭のWi-Fiはつながるのか、家庭にWi-Fiがない児童へ町のWi-Fiを貸し出し、タブレットを使うことができるのか検証した。結果として、つながらない家庭も数件あったので、原因を追究して、来年度持ち帰って使用できるようどのような支援・対策をするのか今年度考えていく。また、持ち帰って使用するにあたり、まずは子供たちが校内で正しく使用できるよう支援していく。

委員

来年度から本格的に取り組まれるということか。

教育推進課長

その通りである。冬休みに一部試行するかもしれない。ただタブレットを持ち帰るのでなく、学力定着させることが大切なので、先生たちと協議していく。

委員

勉強が苦手な子供もいると思うので、学習進度が遅れないように先生方にも頑張っていただきたい。また、タブレットの使う時間が増えると視力の低下など健康面での影響もあると思うので注意していただきたい。

委員

この施策に対する成果指標は3つでよいのか。時代・社会の変化により、求められる資質や能力が変化している中、3つの指標だけではなく、新たな指標が必要なのではないか。

政策推進課長補佐

成果指標を変えるには議会の議決が必要であり、難しい。

教育推進課長

現在の成果指標を変えることはできないが、新学習指導要領等が作成されたこともあり、次回の成果指標を策定する際は新学習要領に基づいた視点を持っていきたい。ただ、継続するという部分もあるので、大きく変えるのではなく、成果指標の追加などが考えられる。

委員

学力の底上げについて、成績が普通の子の内申点を上げるよりも、成績が良くない子の内申点を上げる方が重要ではないか。現在、地元の高校（芽室高校）に入れないと多

くいる状況であり、子供たちが地元の学校に入れるような指導を町として行っていただきたい。

教育推進課長

芽室町の中学校は全国学力学習状況調査の数学・国語において全国平均を上回っている。その中で、伸び悩んでいる子に対しての指導は教員たちも課題としてとらえている。芽室町では発達支援システムというものがあり、地域コーディネーターと協力しながら学力向上させるためにマンパワーをかけてやっている。端末による学習は成績が伸び悩んでいる子に有効（個別最適化）だと言われており、自分に合った学習をすることができる。芽室町の端末にはAIドリルも入れている。端末やAIドリルの導入によって爆発的に点数が向上するとは言えないが、先生のマンパワーのサポートやICTの活用によって伸び悩んでいる子の底上げをしようと努力している。

委員

PTAの経験から、コミュニティスクールの周知・認知が少ないと感じる。また、夢応援ボランティアの登録も少ないと感じる。存在を知らない保護者の方も多いと思うので、周知や募集の方法を工夫してほしい。コミュニティスクールの役割や重要性を伝えていくと興味を持ってくれるのではないか。

教育推進課長

コミュニティスクールの担当課は生涯学習課だが、教育推進課も当然関係している。母体となる協議会を運営しており、議論の進め方を生涯学習アドバイザーと協議している。この議論がしっかりとされることで、ボランティアの方もより積極的に参加できるのではないかと考えている。

グループ長

それでは、評価に入る。府内評価はCであるが、評価に関して意見はあるか。

（意見なし）

それでは、府内評価と同じく「C（前期実施計画策定時と比較して前進した」と評価する。

②社会教育の推進

委員

PTAの経験から、コミュニティスクールの周知・認知が少ないと感じた。また、夢応援ボランティアの登録も少ないと感じる。コミュニティスクールは地域や学校を結ぶ重要

な存在だと思うので、存在を知らない保護者のためにも、周知や募集の方法をより工夫してほしい。

委員

施策マネジメントシートには「地域と共に」と整理されている部分があるが、「地域」とは町内会単位なのか、町内会単位ではないのか。コミュニティスクールの情報について町内会に情報が入ってこない。地域といいながら町内会としては何をすればよいのか。

生涯学習課長

コミュニティスクールについては令和元年から本格的に導入して、3年目になる。昨年はなかなか活動できなかったが多くのボランティアの方に支えてもらった。コミュニティスクールボランティアの周知の部分では、募集の通信を出したり昨年の9月から中学校区に1人ずつコーディネータを配置している。やっていることやお願いしていることの発信はしているが必要としている人に対しての発信をはじめ、広く町民へ行き渡っていないことを実感している。今後は、コーディネータや町の広報広聴係と協力して情報発信の仕方・手法も検討していきたい。学校が発信する情報についてもタイムリーに発信できるように、これまでいただいた意見をもとに効果的な方法を考えていきたい。もう一つ、地域に対する情報提供やボランティアの取りまとめについては各中学校区単位で行っている。町内会単位での取りまとめはしておらず、基本的に町内会に対して取り組み依頼をしたことはない。現在は協力いただいた団体や個人の口コミで情報を発信しているが、今後町内会の皆様にもご尽力いただくことも考えている。

委員

検討していただき、町内会で協力できる部分はしていきたい。

生涯学習課長

コミュニティスクールは学校と地域が協力して子供達の育みを支えという目的のほか、地域の活性化にもつなげたいという意味合いもあるので、委員の意見を参考にさせていただきたい。

委員

成果指標①の児童生徒の社会教育事業への参加者数が策定時より大幅に低下した原因を教えていただきたい。

社会教育係長

策定時 2017 年の実績値は新型コロナウイルス流行前ということもあって揖斐川町との交流、寺子屋等多くの事業を実施することができた。しかし、新型コロナウイルスの影響により軒並み参加人数の多い事業が中止となつたため参加者数が大幅に減少した。

生涯学習課長

交流事業や研修派遣事業が実施できなかつたので、策定時より数値が下がつてしまつた。

委員

社会教育事業の参加者数減少について新型コロナウイルスの影響によるものだと理解したが、そもそも新型コロナウイルスに関係なく参加者数は減つていなかつた。

社会教育係長

年度によつて増減はあるが、参加者数が減つてゐることは確かである。

委員

子供たちの個々の活動が忙しく、子供会の参加者数や通学合宿に参加する子供も減つてゐるように感じる。揖斐川町、トレーシー市との交流事業も同様なのか。

社会教育係長

揖斐川町との交流事業の参加者数は減つていなかつた。トレーシー市との交流事業は日程が長いこともあり、年によつて増減がある。

委員

交流が始めたときは参加者数が多かつたが、今はだんだん減つてきたように感じ、心配。そのあたり、対応をどう考えているのか。

生涯学習課長

児童生徒の活動でスポーツもそうだが、町が行う社会教育事業への参加人数は減つてしまつた。生涯学習課として世代間の交流・地域との関わりを意識していきたい。とくに、子供会は町内会の事情により組織できない場所もあるので町内会単位ではなく連合会という大きな単位で考えていかなくてはいけない。地域と子供たちがどうかかわっていくかという視点で新たな事業も考えていきたい。

委員

全生徒にタブレット配布されたということで、勉強だけではなくオンライン交流にも活用することはできないのか。コロナ渦ということでオンライン交流も主流となつてきて

いるので、子供同士や揖斐川町、トレーシー市との交流にタブレットを使用してみてはどうか。

生涯学習課長

現在はタブレットを学習分野で活用しているが、ある程度使用が慣れてきた場合には、持ち帰りが始まると思う。そうなってくると、教育推進課とも協議しているが学校教育ができる支援と社会教育ができる支援は異なってくると考えている。携帯電話と同様通信のルールなどは生涯学習課で作らないといけないと認識している。

委員

紙面で池田町の図書館で本の消毒器を導入とあったが、芽室町でも導入を考えているのか。

図書館長

消毒器は複数の自治体で導入されており、芽室町でも導入の議論が進んだが、メリット、デメリットの比較を行い、デメリットとして紫外線で消毒を行うので本の日焼けにつながる、新型コロナウイルスの除菌効果が認められていない等があり、金額の問題からも導入を見送った。現在は次亜塩素酸を布巾にスプレーして本を拭くなどできる限り利用者に気持ちよく使用していただける体制にしている。

委員

4 施策を取り巻く状況変化・住民意見等の中に図書館の空調と通信設備の改善とあるが、いくらくらいに改善されるのか。

図書館長

空調について昨年度、今年の3月に工事が完了して館内に設置された。おかげさまで去年と比べ小中学生をはじめする利用者が増加した。また、通信環境も改善され、Wi-Fiの設置工事は完了しているので、周知の方法を現在検討しているところである。

委員

幼児コーナーや視聴覚室は空調の効果を実感できるが、図書館全体に空調設備が設置されたのか。

図書館長

図書館全体に6個設置されている。

委員

Wi-Fi の使用開始はいつからか。

図書館長

近日中に使用を開始させたいが、まだ、周知の方法も含めて使用日について確定していない。

委員

成果指標②生涯学習の機会が充実していると思う住民の割合が策定時と比べ大きく伸びているが、課題は活動場所の確保のしやすさだと思う。とくに、予約方法や適正な料金など、人数が多くればよいが少數で活動する場合の一人に対する料金が高いと感じる。実際にシニア世代から公民館の予約の方法と料金について複数の声をいただいた。住民主体の活動も大事だと思うので、利用者の声を情報共有させていただいた。また、今後は公民館だけではなく、役場庁舎の3階も使用することはできないのか。

生涯学習課長

公共施設料金の設定について、社会教育施設だけの問題ではなく、公共料金の考え方については役場全体としての考え方があるので、その考え方を見直すことになれば社会教育施設も合わせて議論することになると思う。公民館の利用について、1人だけで利用することも可能であり、庁舎の利用も場所によっては可能である。

委員

庁舎地下の会議室は一般開放しているのか。

政策推進課長補佐

現時点では、一般開放はしていない。

グループ長

それでは、評価に入る。施策名「社会教育の推進」について、庁内評価はCであるが、評価に関して意見はあるか。

(意見なし)

それでは、庁内評価と同じく「C（前期実施計画策定時と比較して前進した」と評価する。

③地域文化の振興

委員

文化協会に娘が所属していて、施設利用料の減免は切実な問題だと感じる。日本舞踊は利用人数も少なく、月謝だけでは利用料を賄えなくなっているので、減免があれば気軽に文化協会の活動や習い事に参加しやすくなるのではないか。

生涯学習課長

社会教育施設の利用料だけ変更することは難しいので、活動する内容によって減免するのか、しないのか。もしくは、事業や団体に対して事業費補助として補助金を上乗せするのか文化協会の役員の方々と支援の方法について話し合っている。今後町の支援が文化協会に対してどのようなものがいいのか、文化協会と考え方を共有していきたい。基本料金を変えるという整理ではなく、事業に対してどのような支援をするのか整理していきたい。

委員

成果指標①文化活動がしやすいと感じる町民の割合について、実績値に対してなぜ2022年度目標値が下がるのか。また、成果指標②も同様か。

生涯学習課長

2017年度実績値に基づき目標値が策定されるため。成果指標②文化活動の参加者数については、目標策定時に参加者の減少傾向、事業の縮小傾向が強かったので、目標値を現状維持とした。また、目標値は途中変更することができないので、実績値に対して目標値が下がっている。

委員

成果指標②について、新型コロナウイルスの影響があると思うが、なぜ地域文化活動への参加者は2020年度増えたのか。

社会教育係長

成果指標②の地域文化活動というものには町民文化展の出展者が含まれており、去年は幼稚園、保育園からの出展があったので数が大きく増えた。

委員

出展作品が減っていく中で子供たちの参加はすごく大切なので、ぜひ今後も参加してほしい。町民文化展への出展以外の要因は。

社会教育係長

コンサートの参加者や文化協会の会員の方々、町民活動支援センターでは文化に関連す

る方々も地域文化活動への参加者として含んでいる。

委員

文化財の収集・活用について、町内に彫刻や絵画が点在しており、絵画はホームページにて一覧表を確認できるが彫刻の置き場所マップのようなものは存在するのか。また、芽室町の文化財は何をさし、どの範囲までいうのか。

生涯学習課長

過去にどういう整理をされたのか調べたのち、回答する。

グループ長

それでは、評価に入る。府内評価はCであるが、評価に関して意見はあるか。

(意見なし)

それでは、府内評価と同じく「C（前期実施計画策定時と比較して前進した」と評価する。

④スポーツしやすい環境づくり

委員

芽室町内のスキー場としてめむろ新嵐山スカイパークがあり指定管理となっているが、新嵐山スキー場もスポーツという意味で生涯学習の位置づけになるのではないかと思う。例として経費問題などからナイターが無くなったことによって、ナイターしか滑ることのできない子供や大人の人がスキーをすることができない環境になった。ナイター スキーができるように生涯学習として支援したり、町内の小学生の利用料金を下げるなどプールや体育館で実施している町内料金のようにしないのか。せっかく、町内にスキー場があるので町内の子供たちにスキーをする機会を増やしたらよいのではないか。

生涯学習課長

指定管理の区域の中で経営しているめむろ新嵐山株式会社に対してハード部分で生涯学習課が関わることはない。また、社会教育事業として新嵐山を利用するということはあるが、ナイター営業などの営業に対して何か行うということもない。昨年の例では指定管理区域外で歩くスキーの会の皆様から歩くスキーコースをつくりたいという要望があったので、支援をおこなった。新嵐山スカイパークは町の社会体育施設という位置づけではないので原則として直接、経営に参画はしない。スキーをやりやすい環境にするために、スポーツ振興という面、スキーという種目のなかでなにか生涯学習課でできないのかという視点であれば検討材料になる。もし、活動の中で今の新嵐山へ料金や環境の改善、支援が必要となれば議論をしていきたい。

委員

新嵐山株式会社が定めた利用料金を変更することはできないと思うが利用料金に対し
て町内に人たちが購入したら町が一部補填するなどできないのか。スキー場は町の財産
だと思うので、生涯学習としてスキー場を町民に利用しやすい環境にしていただきたい。
町民利用者に対して何かしらの特典があると良いと思うが。

生涯学習課長

スポーツ振興の中のスキーという種目の支援要望があれば議論する。また、活動している
団体から要望があればどこに課題があり、どの解決策が望ましいのかスキーに限らず
社会教育の観点から協議していく。

委員

新嵐山に関する住民意識調査を拝見してみて、高校生からの回答で、芽室町で唯一の遊
び場だったのにスキー場や飲食店がリゾート化されて、きれいにはなったが自分たちが
使いにくくなつたので行きたいけど行けないという回答が印象に残っている。子供から
の直接の訴えもあるので、冬のスポーツとして子供たちの活動しやすい場所になってほ
しい。

生涯学習課長

この場で料金を下げるとは言えないが、協議団体や個人の方を含めて課題意見があれば、
どのような解決策・支援策が良いのか検討していく。スポーツ振興の観点からそういう
整理をしなければいけないと考える。

委員

住民意識調査に出ている意見をどうとらえているのか。先ほど、意見をもらえば議論
するとあったが、住民意識調査をはじめ、個人からは常に意見が出ている状態で、団体
として意見が言いにくい部分もあると思うが、団体の意見ではないと駄目なのか。新嵐
山に関する所管は魅力創造課だと思うが、生涯学習課としてなにか支援を行っていただき
たい。

生涯学習課長

団体でなければだめということはない。課題認識としてスポーツ振興と新嵐山の経営の
立場でり合わせをして生涯学習課として議論していなかったので、今日いただいた意見を参考にして役場内でどういう支援をしていくのか整理をする。また、新嵐山の改革
を進めてきてスポーツ振興という観点で生涯学習課がどうかわっていくのか議論が

進んでいなかったので、今後の参考にさせていただく。

委員

住民意識調査の回答のなかに総合体育館のトレーニング機器が古いなどの意見があるが、今後新しい機器を導入する予定はあるのか。

生涯学習課長

総合体育館のトレーニング機能について、安全性の点検を実施しており、必要な修繕を施している。令和5年度には新しいプールが供用開始されるが、その付属する施設にトレーニング機能を兼ね備える予定である。現在の体育館のトレーニングルームをそれまでは維持管理し、令和5年度から新しくなる。

委員

住民意識調査の意見で、バスケットをしたいという意見が多いが、バスケットのできる環境を整備していただきたい。

生涯学習課長

プールの建て替え計画の中に、屋外で3on3のバスケットボールができる環境を整備する提案もあるので、整理はこれからになるが検討していきたい。

委員

ゲートボールについて、3施策の達成状況（根拠）に本町発祥のゲートボールの推進を加速し、競技として継続できる環境づくりに努めるとあるが、高校生以下に教え、伝えていくことが大切だと思うがどのように考えているのか。

生涯学習課長

ゲートボール発祥の地だが、昭和の終わりから平成の最初の時期に比べて競技人口は全国で10分の1、芽室町でも減ってきている。そもそも競技としてなくなってしまっては元も子もないので、いかにスポーツとしてつないでいくのか、若い子から共感を得ることが大切なので、中学、高校、大学にも働きかけをしている。日本ゲートボール連合という組織でも再生プロジェクトを作り取り組んでおり、発祥の地として、芽室町も計画を立てて進めていきたい。実際に今年も役場だけではなく、関係団体の方と共に学校現場へ普及させていきたいと考えている。

委員

毎年発祥の地杯が開催されているが、大会にあまり重みを感じない。例えば、内閣総理

大臣賞や知事賞を入れるなど、大会に出たいと思わせる、そういういた働きかけも必要なのではないか。今は、知っている人は知っているが、知らない人は知らない大会になつていて、そうではなく、50年後オリンピックの競技になるような重みのある大会にしていただきたい。

生涯学習課長

一昨年の大会終了後の総括として、競技性を重視していくことで合意された。昨年今年と開催できていないが、今年度からは生涯学習課が管轄となり、競技性に重きを置く大会にするべく、実行委員とも協議していく予定であった。来年に向け、目指す大会の姿はどうなのか実行委員の方々と協議していきたい。

委員

2年前に町職員採用試験実技にゲートボールがあったと思うが、今でも続いているのか。

政策推進課長補佐

担当課に確認する。

委員

ゲートボール全国大会にてプラカード持ちを経験したのだが、現在も中学生がプラカードを持ったり、大会に関わっているのか。

生涯学習課長

ゲートボール競技に関わっていない人については近年プラカード持ちを行っていない。現在は吹奏楽の方たちに協力してもらって、演奏していただいている。

委員

すごくいい思い出になると思うので、ぜひ実施していただきたい。

生涯学習課長

大きい大会を開催する際は、委員の意見を実行委員会で情報提供し、検討していく。

グループ長

それでは、評価に入る。施策名「スポーツしやすい環境づくり」について、府内評価はDであるが、評価に関して意見はあるか。

委員

評価は前期実施計画策定時と比較してということか。

政策推進課長補佐

たとえば、プールの建設等、着実に事業は計画通りに進んでいるが、プールが完成する等の成果がまだ見えていないので府内評価ではD評価となっている。成果に向けて着実に事業は進んでいるという意味でのD評価であると認識している。

グループ長

他に意見はあるか。

(意見無し)

それでは、府内評価と同じく「D（前期実施計画策定時と比較して変わらない又は維持した」と評価する。

グループ長

以上で本日の議事がすべて終了した。今後のスケジュールについて、事務局より説明をお願いする。

事務局

資料に沿って説明。

グループ長

今の説明に関して何か質問や意見はあるか。

(質問・意見なし)

それでは、これで本日の専門部会を終了する。

令和3年度第3回芽室町総合計画審議会（専門部会B）議事録

令和3年8月11日

■出席委員（8名）

鈴木グループ長、小林委員、櫻井委員、須崎委員、須藤委員、高橋（圭）委員、
高橋（好）委員、山田委員

■欠席委員（2名）

岡田委員、黒田委員

■事務局・説明員

石田政策推進課長、村上主任

我妻農林課長、藤村農林環境係長、速水畜産振興係長、次田土地改良係長
仲野商工労政課長、中村商工労政課長補佐、安田工業労政係長、
西田魅力創造課長、小林魅力創造課参事

■開会

■グループ長挨拶

■報告

第2回専門部会で回答できなかった質問への返答。

※教育推進課教育推進係からの回答を事務局が代読

まず、以前コロナでタブレットを持ち帰るときに親に学校に取りに来てももらった点について、芽室西中学校のクラスター発生時のことだと思われる。これは生徒が濃厚接触者に特定されていたため、保護者の方に取りにきていただいた特殊なケースであり、今後日常的な持ち帰りとなった場合は、児童生徒自身が持って帰ることになる。次に、専用の持ち運びケースについて。タブレット本体はかなりの高さから落としても破損しない頑丈な作りとなっている。また、持ち運びは、ランドセルや通学カバンに入れて運ぶことを想定しているので、専用ケースを購入する予定はない。

次に、「補償内容」について。校内での使用中の故障・破損については、学校の管理下にあることから、他の学校備品と同様に学校負担で修理等を行う。また、今後想定される日常的な持ち帰りについては、現在教育委員会で開始時期等を含め検討中であり、持ち帰り時の故障・破損等への保護者による補償についても、決定次第お知らせする。

■委員の自己紹介

グループに分かれての専門部会は初めてなので、簡単に自己紹介。

■調査事項

①担い手育成と農業の応援団づくり

《事前に受けた質問・意見に対する回答》

農林課長

新規就農者 H28 1 組 2 名以降、実績はない

2018 年度決算が大きい理由。町以外の実施主体が整備した野菜の冷凍加工施設それに関わる収穫の機械に約 1 億 8 千万。これは町のお金で補助したわけではなく、国から同額の補助金を受けて、事業主体に補助。いわゆる間接補助事業というもので、お金が町の財布を通過してそのまま事業実施主体に補助したということ。そのため 2018 年度の決算額が多くなっている。

委員

過去に新規就農をしたいと芽室町に電話して話を聞いたことがある。農家 1 軒あたりの 40ha ないと厳しいのではないかということと、始めるにあたり農機具一式をそろえるのに 1 億程度かかる。北海道の他の市町村と比べて芽室町はハードルが高いように感じるがどうか。

農林課長

新規就農についての問い合わせは、年間数件程度ある。ご指摘のとおり、芽室町で 1 から農業を始めようとするとハードルが高いと思う。1 番大きいハードルは農地の取得。現在芽室の農家は約 590 戸あり、1 戸当たりの平均は 40ha 弱。経営そのものは 40ha 必ずしもなくてもよいが、一般の人は法律上農地を取得できないので、農地の取得が 1 番のハードルとなる。さらに、機械の当初の導入など色々なハードルがある。

町としては、農業現場の労働力不足は大きな課題だと考えている。その解決策として、新規就農をされる方、日々のパートや従業員として勤める、配偶者問題、大きく分けて 3 つあると考えている。町としても農業委員会や農協と話して受入体制や受け皿づくりの協議を進めている。お答えになるか分からぬが、ハードルが高いが、相談来る人のニーズに応えられるような体制づくりを進めているところ。

委員

成果指標の③「日頃、地産地消を意識して買い物をしている町民の割合」で住民意識調査の数字が掲げられているが、買いたいなという意識だけで具体的な購買につながっているかが分からぬが、分かる資料や調査やヒアリングなど資料はあるか？

次に、いわゆる労働力の不足と新規就農はあまり相関関係がないように感じる。例えばコロナの影響でアジアの方が来れなくて生産現場が困るというニュースを見たが、新規就農というよりも労働力をアジアから確保するとか、機械化で省力化をはかるなど、何か町として取り組みがあれば教えてもらいたい。

農林課長

成果指標については、ここにある以外の指標は持ち合わせていない。

労働力不足と新規就農の関係についてだが、おっしゃる通り直接的には結び付かない場合もあるかと思う。ただ、「新規就農＝経営者になって就農する」ということ以外にも、法人に就職する等もあるので、新規就農＝労働力不足解決ではなく、1つの方策だと考えている。本当に労働力不足解決という意味では、JAで取り組まれているような管内農協の連携による1日単位からのマッチングや、町としても農業委員会や農協などと連携し労働力不足をどうやって解決していくかを検討し、新規就農の相談があった時に、ニーズに応えられるような広く総合的な体制を考えているところ。

委員

地産地消についての提案。新規就農や労働力不足についてJAと連携しているのであれば、芽室の人が芽室の野菜を買っているかを期間限定でもいいので集計を取るなど、実際消費高がどれくらいなのかが分かれば、より一層、芽室の人は芽室の農家さんに関心を持つという図式になるのでは。意識調査だけでは「買いたいな」だけで終わってしまうかもしれない。愛菜屋もあるので、そういう取り組みがあるとより一層分かりやすいと思った。

農林課長

ありがとうございます。

委員

成果指標①「新規就農者数（後継者就農を含む）」は、累計の数字か？

農林課長

単年度の数字。実際の数字でいうと、2019年実績、2020年実績、2021年度予想で8人+11人+15人=34人と積み上がっていくという見方。

グループ長

担当課の評価はC。成果指標や達成状況プロセス含め、C以外ではないかという意見があればお聞きしたいがいかがか。もしくは、Cという意見でも。

（発言なし）

特になければ、部会の評価もCとさせていただく。

②農業生産性の向上と経営基盤支援

委員

2020年度の事業費は2018年度の9倍近い金額。大きな要因は何か？

農林課長

哺育育成施設を建設して、今年度から運用開始している。哺育育成施設とは、酪農家の生まれた牛を預かり飼育して、牛乳を出せるようになるまで預かりする施設。2019年度から建設を始め、2020年度が1番多くの施設を整備しているため、かなり大きな事業費になっている。

委員

農業ICTについて、光ファイバーの整備が今年度で完了することになっているが、これをメリットとして生かしていきたい農業者の調査的なものはあるか。また、先ほども話が出た農家の労働力不足解消について、1dayのアルバイト等をJAのものを使ってではなく自分の光ファイバーで自己完結できるような予定があるとか、何かあれば教えてもらいたい。

農林課長

光ファイバーについては、今年度農村部全域整備しこれをもって町全域に光ファイバーが敷設されるということになる。事前に農村部の方に仮ではあるが申し込みの意向を聞いていますが、600戸を超える希望があり、ICTを活用したいというニーズがあると考えている。

労働力不足の件については、既に機械化やトラクターの自動運転の分野などでかなり活用している。アプリを使ったマッチングについては、スマートフォンのアプリを使って、個人レベルで求人を出している農家さんとマッチングできる仕組みで自己完結できる。農協が間に入っているわけではない。現在の光ファイバー整備を労働力不足解消に、という面でいうと、違った形で光ファイバーを活用できるということで、町と農協も含め検討しているところである。

グループ長

評価について意見はあるか。

委員

説明を聞いた中で、努力されている結果が出ているので、Cでいいのではないか。

グループ長

専門部会の評価について。担当課評価・府内評価について反証材料がないからこのままでいくしかないというのではなく、専門部会として自分たちがこの項目についてどう考えるか意見を聞きたい。山田委員からCという意見があったが、他に意見はあるか
(意見なし)

では、部会の意見としてCとさせていただく。

③農地・土地改良施設等の整備・充実

委員

P.5の1の結果の欄にある農業用水施設とは、美生ダムのことか。それとも水を貯める場所が町内にたくさんあるのかということを教えてもらいたい。

農林課長

農業用水施設で1番分かりやすい例が美生ダムで、ダムに貯まった水が地下の管を通して畠に送られている。芽室は4つの水源から同じように地下の管を通して畠を送っている。美生ダムのみならず、河北で2つ、河南で2つ、農業用水施設とは畠に水を運ぶための施設なので、地下に埋設している管や、畠の端っこに立ち上がっている水が出る管なども農業用水施設と呼んでいる。

委員

この事業は、維持管理に毎年同じくらいの金額がかかっていくという性質のものなのか。それとも、今後さらに費用をかけて施設を増やしていく性質のものなのか、傾向があれば教えてほしい。

農林課長

土地改良事業というのは、水を運ぶ農業用水のみならず、暗渠と呼ばれる畠の排水性を良くするための管や、施設ではないが石を取ったり、均平（平らにならす）など様々な事業を行っている。特に、管や施設に関しては年数が進むと老朽化が進み修繕や更新が出てくるので、土地改良事業というのは、国営と呼ばれる国が主体となる事業と、道営と呼ばれる道が主体となる事業、そして数は少ないが団体営と呼ばれる農業団体が行う事業とあり、それぞれの主体が事業をかなり長いスパンでエリアごとに順番に回してやっていて、同じエリアに次にくるのは20年～30年後になる。その間の維持管理には必

要最低限のお金がかかるが、今後増えていくかというところでいくと、極端に大きく増えることはないが、過去に整備した施設の維持管理に最低限のお金は毎年かかっていく。

委員

成果指標①だけが 2022 年度目標に達していないというところでお聞きしたい。P6 の 5 の 1 点目に「道営の土地改良事業については…」という記載があるが、成果指標①「土地改良事業整備済み面積」の 2022 年度目標と 2020 年度実績との差の面積は、芽室町がどうにかすれば達成できる数字なのか、それとも北海道との連携しなければいけない数字がメインなのか。そこによって努力の仕方が変わるかと思うのだが、いかがか。

土地改良係長

畠の面を整備するということで、面というのは先ほどの暗渠や客土や、農地を整備する面積、道営土地改良事業ということで、道と協力してその整備面積を上げていくことになる。受益者である農家から要望を聞き取って整備をしていっているので、将来の目標の予定というのが、今動いている事業の最終結果ということになる。道営の事業をうまく使っていけばこの成果指標になるということになる。

委員

うまく使うというのは、農家さんからの要望によって、町でうまく使っていくというのはそういう意味か？

土地改良係長

整備したい面積というのは農家の要望で決まっていて、年度に区切りがあり年度間で事業量に増減がある中でスムーズに計画的にやっていくという形。要望の面積が含まれている。

農林課長

先ほどお話した、主体が国か道か団体かでいうところで、ここで言っているのは北海道の事業。今芽室は 5 地区に分けて同時並行で進んでいる。2022 年度時点までの農家からの整備要望を積み上げていくと 20,588 になる。このまま道と連携を図りながら進めしていくことで目標に達する見込み。

土地改良係長

途中で追加の部分もあって、実際今年度終わると面積分は目標を上回る形になる。2021 年度の実績の見込みでは目標に達する。実際は、その年度に応じて整備面積に若干変動があるので、要望を受けているものについては整備が終わっていっている状況である。

委員

ということは、今やっている途中の数字という風に判断していいか。2020 年度の数字は実績で、またさらに今やっていって、終わったらこの数字になると。

農林課長

土地改良事業はスパンの長い膨大な事業。1つの面について5か年～7か年計画で順次進んでいくので、今まさに進捗している状況。土地改良係長から申し上げた通り、年度の事業量も増減するので、あくまでも 2020 年度実績というのは、(計画自体はまだ) 進捗中だが 2020 年度に整備が終わった面積ということ。

委員

成果指標②③のところ。Km で延長した距離という形だが、維持管理しながら伸ばしていくって今累計という数字だと思うが、減ることはないということでいいのか？

土地改良係

②③は今整備が終わっている延長で、明渠や排水路がちゃんと使えますよという全体の延長がしっかり使っているということ。

委員

では大きな災害がおきたら引き算もありえるのか。

土地改良係長

その場合は②「良好に管理されている明渠施設の延長」が減ることになる。

グループ長

先ほど委員からも話があったが、成果指標の②③については今のところ目標に達成中であり、①の指標についても前年の伸び率からみても今のところ順調に推移しているという形で数字上はとらえることができるかと思う。ここで専門部会としての評価に移りたいが、何か意見があるか。

委員

初めてなので評価の仕方について教えてもらいたい。元々この事業の性質として、国または道と連携しているという点と、長いスパンで維持管理していくという点では、私の感覚ではこの事業の評価は「A 実現した」と見える。ただ、私の感覚の「実現した」と、ここで使う「A 実現した」の意味が違うのであれば、おおむね順調に進んでいるという

意味でのCというのはそうかなと思うが、むしろ実現しない方がおかしいという性質かと思うので、Aという評価ではダメなのか？

また、P.6の5の欄に売電の記載があるが、今後売電など維持管理を自分たちでと考えがあるのであれば、美生ダムは観光の利活用ということについても可能性があると私は思っている。売電はどこでもできることだが、芽室の町として美生ダムをそういった活用が可能であるならば、そういうことも記載していただければ。今日この後に出てくる（調査対象になっている）観光分野においても活用できるのではと感じた。

政策推進課長

評価の仕方について。1つご理解いただきたいのは、成果指標はあくまでも参考である。成果指標だけで評価するのであれば、皆さんに集まっていたので議論する必要はない。成果指標という参考値を使いながら、「1. 施策の方針と成果指標」の結果が達成されているかどうかを評価する。

今回のこのテーマ（事業）については、「基盤産業である農業の生産基盤となる、農地・土地改良施設・農業用水施設を整備・監理することで、農業経営の安定化と農業産出額の維持・向上を図る」について、完璧にできている・文句ないということであればA。ただ、先ほど委員からもお話をあった、売電についてはできているとは言えず、非常に難しい状況。そして補足になるが、土地改良事業は国や道という話があったが、主体が国や道でも、町も3.125%お金を出している。なので、売電してお金を稼がなければ、今後の維持管理というのは非常に難しい。そういう課題もあることをご理解いただきたい。

農林課長

売電の状況について。平成29年からダムの上から下に落ちる流下を使って売電ができるのかという検討を進めており、令和8年から運用できるよう国（帯広開発建設部）が主体で協議を続けているところ。そして先ほど政策推進課長から話があった通り、主体が国や道でも、すべての事業が完了したのちに地元負担ということで一定の率を負担する。それに加えて、農業用水は使われる農家さんが最後に負担する仕組みになっている。売電することで施設の維持管理や、農家さんの負担を少しでも減らせるように検討を進めているところである。

グループ長

評価について。数年委員をしていて「A実現した」はあまり見たことがないのだが、実現したというのは次の計画を立てなくともいいレベルで達成しているというイメージでいいのか。

政策推進課長

そういう感覚でよいと思う。私も長く携わっているが、A評価は記憶にない。行政の仕事は4年で終わらないことが多くずっと続くとするならば、実現したというのはつけづらい。B評価も1個あるかどうか。Bもなかなか行政としてつけづらいのもあるし、4年で大きく前進するということにはなかなかならない。前回の専門部会の「効果的・効率的な行政運営」の成果指標に、「外部評価がC以上の評価施策割合」という項目があったが、Cが目標というのが正直ある。

委員

先ほど政策推進課長から、「成果指標がすべてではない」という話があったが、例えばP.7の成果指標では、策定時で既に95%や99%で、達成目標に近いところでゴールが設定されている。数字上は①②③ともに順調にいっているのだと思うが、担当課として（2022年度目標について）高飛びのハードルの高さをどうとらえているか。私見かもしれないが聞けるなら聞きたい。

農林課長

担当課としては、終わりがないものだと思っている。土地改良は20年経つと設備の老朽や、新たな施設が欲しいという要望も出るので、畠がある限りずっと続く。行政の役割として畠を守る意味では、指標自体のハードルが高いか低いかというよりは、継続して取り組まなければならない施策だと考えている。

グループ長

ありがとうございます。皆さんの共通見解も整理させていただいたので、これから評価について検討したい。今の話を聞くと、これからもまだまだ続くという点からAはないかなと思うが、皆さんのご意見をお聞きしながら決めたい。いかがか？

（意見なし）

特に意見がなければC前進したという形になるがいかがか？

（問題ないの声あり）

ではCとさせていただく。

④地域林業の推進

グループ長

こちらも指標だけ見ると順調かというのが見えるが、P.7の3では町民参加型の事業中止など外的要因もあった中で「成果は変わらなかった」という評価もある。ご意見があればいただきたい。

山田委員 P.7 の 3-②2022 年度目標達成見込みについて。コロナの状況がおさまったときに新たな取り組みが考えられてくると思う。コロナで色々なことが中止される中では、状況がよくなる要因がない、長い目で見て活動ができるようになれば達成できるようになるかなと予測できるので、そうなると、(自己評価の)「D 変わらない・維持した」という評価は、前進はしていないが後退もしていないというところでは、冷静な判断をしているなど受けとめて見ている。

グループ長

毎年農林課さんは自己評価が厳しいというのがあるが。(会場内で笑いが起きる)

農林課長

基本的には担当が変わっても客観的に自己分析して評価している。コロナの関係で参加型の事業が中止になったこともあるが、担当課としても今後、コロナがなくなるとは思えないでの、どういった事業が展開できるかを考えながら進めていきたい。そういう意味では参加型の事業ができなくなっても十分目標を達成できると考えている。

委員

心強い。

委員

成果指標②③の数字は、P.8 に記載されている「芽室町森林整備計画」の数字をふまえた数値で設定されているのか。

農林課長

ご指摘のとおり芽室町森林整備計画に基づいた数字である。

委員

であれば、先ほどの土地改良と似たような感じの数値、(つまり) 計画があってその計画が最終的な目標となっているのか。

農林課長

畠と同じように、森林がある限り継続していかなければならない。(芽室町森林整備) 計画も期間が決まった計画なので、見直し時期がきたら目標数字を見直されるので、この期間における目標と捉えている

委員

P8の5に「幹線防風林整備計画」とあるが、この文言を見ると、これはまだ策定していないということか。

農林課長

令和2年度と今年度の2か年で風向風量調査を行い、この6月に結果がまとまっている。年内に計画を策定すべく進めており、まだ策定はされていない。

委員

(先ほどの話で) コロナがなくなることがない、withコロナの時代に向けてということで、町民参加型事業を継続していくことで町民が森林を感じられるかと思うが、森林環境譲与税ということで成り立っているのであれば、今年度または来年度にwithコロナでありながら何か新しい町民参加型(イベント)を検討しているか。

農林課長

今年度については、参加型イベントは計画としては持っていない。来年度以降については、一切参加型をやめると決めているわけではなく、コロナの状況を見ながら・対策を取りながら、やれるものはやっていきたい。また、参加型の森林の植栽や伐採をする(行事)以外にも、森林からできあがった木製製品や木そのものにふれる機会をもつことで、森林への理解を深められないかということで担当課として考えているものがある。

委員

まったくちがう事業だと思うが、めむろーどの2階で「カラマツを使ったものです」等の写真とともに触れる展示物があった。費用が使えるのであれば、パネル展示してあるとか、参加しなくとも、そういう方法で何か町民が触れたり知ったりできることがあれば素敵だなと思った。

農林課長

大変参考になる意見。町も、町単独というよりは国の機関や道の機関もあるので、今いただいた意見なども連携して検討していきたい。

委員

楽しみにしている。

委員

町道のすぐ横に生えている木は、町の区域なのか、森林で私有地なのか。町道はどこまでが町の区域になるのか。

農林課長

基本的には道路用地にやみくもに木が生えているところはない。町道の横に林があるのは、町有林か国有林か個人が持っている私有林のいずれかになると思う。国が所有する林は山の奥にありおそらく町道の横にはないと思うので、町有林か私有林のいずれかになるかと。

委員

生活環境でごみ拾いの監視で回るが、草が生えていると見えないので、草刈りをするのに町でやるのか個人で頼むのか聞いたかった。

農林課長

林に限らずだが、町所有のものは町が管理するし、個人所有のものは個人の管理になる。林業の中で大きな課題は、個人の方が民有林について適正な管理をどうするかというところ。町のものについては計画的に管理できるが、個人のものについては町が勝手にできないし個人にも強制できないので、大きな課題。

グループ長

他に意見がなければ評価にうつりたい。担当課の評価はD、庁内評価もD。専門部会の評価について、何か意見はあるか。

(意見なし)

特になければDでよろしいか。

(異議なし)

それではDで評価する。

⑤地域内循環の推進と商工業の振興

《事前に受けた質問・意見に対する回答》

商工労政課長

1点目については、製造品出荷額、商品販売額は、ともに事業所集計。製造品出荷額は産業別集計の中の製造業の市町村別の数字で、商品販売額は産業別集計の卸売業小売業に関する数字。

2点目は施策の方針が中心市街地活性化のでもっと妥当な成果指標があるのでとはいう趣旨だと思う。経済に関する成果指標をどうしていくかは非常に悩ましい問題。後期計画に向けて検討していきたい

委員

芽室だとダイイチ・フクハラ・ツルハ等域外の小売りの割合が大きく、商店街の事業者と比べるとロットのインパクトが大きい中で、本当に地場の企業はどうなのかという部分で確認させていただいた。2点目の質問については、域外の資本ではなく地場の企業の力について、地場で新規の事業がどれくらい増えたの方が、商工業の振興という部分については真に見えてくるのかと。データは難しいかとは思うが。

委員

3. 施策の達成状況の③について。コロナを原因とした倒産は町内ではあったのか。

商工労政課長

我々の把握としては、直接的にコロナが原因という倒産・閉店は伺っていない。1年あまりの期間の中で何店かそれぞれのご事情で閉店されたというお話を聞いており、そういった状況と理解している。

委員

「これだけのものでは、とうてい太刀打ちできない、コロナ倒産だよ」という話を耳にして、国・道・町等色々な補助や支援があったと思うが、芽室町の中でコロナが原因の倒産があったのか、自分たちも商売をやっている以上、他人事ではないので聞いてみた。

委員

施策名で「地域内循環」と銘打っているので、さきほどの質問でも出た、域外のダイイチさんやツルハさんは雇用の面では循環はしているかもしれないが、経済という面では外へお金が出ているので、地域内循環になっていない。そういった目安のものが入っていないのはなぜなのか。今更変えられないとすれば、域内の部分で指標があるのか調べていただきたい。

中心市街地活性化という点でいうと、空き店舗の推移。空き店舗が増えているのか解消しているのかは大きな問題だと思う。過去のものがないのであれば今後入れた方がよいのでは。

空き店舗の活用に関して、今後町として何らかの働きかけをしていくのか。商業従事者がやることなので町としてやることはないかもしれないが、スタートアップ企業への補助など考えうるのか。また、町が大きな施設を取得して中心市街地の活性化、新得町の駅前再開発のようなことは一事業者がやることではないと思うので、今後町が大きな取り組みをする予定があるのか教えてもらいたい。

商工労政課長

指標は、今回統計調査という公的な調査を使用している。一見良い指標だが経済センサス調査は5年に1回の調査なので数年間数字が据え置きて、変動要因が捉えづらい側面はある。一方で、ご提案があった「空き店舗率」など独自調査という形では、動きに対する原因が見えやすいというメリットがある半面、経済センサス調査等の公的なものとちがって数字がどこまで正確に把握できるかという点では疑問点はある。また、独自調査となると自前になるので、かける労力とリターンという点もあり、どちらもメリットデメリットはある。今後後期実施計画に向けて検討する期間があるので、少し検討していきたいと現時点では考えている。

街中の空き店舗・空き地の活用について。今年、商工会青年部とJA青年部と協力をしながら、街中の空き店舗対策を共通の研究課題としている動きもあり、役場職員の中でも、商工労政課や若手職員を中心にワークショップ参加している。どうなっていくかはこれから議論だが、そういった動きを大切にしていきたい。

空き地空き店舗はそれぞれオーナーさんがいる中でいきなり整理するというのはなかなか難しい話なので簡単にはいかないが、先ほどご提案の中にあった補助や開店資金の支援などは手段手法としてはありえる1つかと思う。どういった手法がいいのかは、何を軸・柱にして中心市街地の活性化をはかっていくかによって変わってくるので、まずは町として関係者と議論を深めながら、どういう方向性で街中にぎわいを作っていくのか・活性化を進めていくのかを議論して、その中で見えてきた柱・構想の中で、手段としての開店資金の補助などが必要であれば検討していく、という手順で考えている。

委員

何をもってしてというのが、芽室町の色になると感じている。1つの課だけでやるのではなく町全体として打ち出すというのが必要だと感じている。町にぎわいがあるのとないのでは町のイメージが変わってくる。中心市街地は町の顔。明確に出されるのはとても良いこと。今後機会があればやっていただきたい。

委員

芽室町ハローワークに会社から求人を出す場合、規約やルールに基づいて掲載しているのか？事実かは分からぬが「(帯広市にある)北海道ハローワーク載せるためには書く項目が多い・厳しい等色々な問題があるので、芽室町ハローワークだけに出した」という話を聞いた。入ってほしい人が芽室町民であってほしいという要望があったのであれば良いが、求人を出しやすい・ルールがゆるいという理由で企業側が芽室町ハローワークに求人を載せているのであれば、「芽室町ハローワークに書いてあるものと違った」とか「入ってすぐに倒産してしまった」ということになる。せっかく立ち上げたハローワークなのに継続的な事業を行なうにあたり町民から不安があるというのももったいない。今はククルクスさんに委託されていると思うが、そういう点においてどのような

ルールになっているかをお聞きしたい。

工業労政係長

登録の内容のルールとしては細かな規定があるわけではなく一般的な就労のルールに則っていないものは掲載できないという程度だが、その代わり通常のハローワークよりも担当職員が求人企業と面談させていただき、就労の条件等についてかなり細かく面談している。もし多少の悪意があって嘘偽りがあったとしても、そういったお話を聞いた場合は必ず対応している。問題があった場合も町と委託者と協力して対応をとっているので、細かなルールはないとは言え、町民の方に不安を与えるようなものではないと認識している。

委員

芽室町ハローワークであるからこそできるのが、企業との面談やアフターフォローということか。

工業労政係長

1件1件に丁寧に対応できるのが1番の魅力。

委員

町民に近いところを活かして、だからこそ町民が不安感を抱くというのも直にストレートにいってしまうかなと思う。分かりました。

委員

小林委員から空き店舗の数や率という話があったが、どこからどこまでが中心市街地エリアなのか。線引きがあればおしえてもらいたい。

商工労政課長

都市計画の商業地域、赤く色分けされた部分を中心市街地という言い方をしている。

委員

行政の線引きと、人々が思う線引きは違うのかもしれない。うちの町でいうと（行政の中心市街地に）さくら亭は入っていないが、人々は中心市街地の中にあると。

4年前に役場と商工会で空き地空き店舗の意識調査をしているのを見たが、その線引きはその範囲内？

商工労政課長

おっしゃるとおり都市計画の商業地域の範囲内。

委員

評価に入りたい。商業と工業が分かれていて、3①を見ると工業系は順調に推移した、成果は「変わらなかった」と評価している。ただしハローワークも色々な取り組みをされている中で、担当課の評価はC、庁内評価もC前進したという評価。皆様のご意見は。

委員

中心市街地が（都市計画の）赤い地域と思っておらず、先ほどのさくら亭さんや、他にも一般住宅の中にカフェができたり個人でお店をやったりというところで、活性化してきたと思っていた。しかし中心市街地から外れているので、「芽室町の中心市街活性化による地域内経済循環」という施策の方針でいうと、その思いを入れて評価してもいいのか教えてほしい。

政策推進課長

1. 施策の方針と成果指標の結果は「雇用・税収の確保、町内消費の増加」を目指しているので、委員の観点は入れてもいいと思う。

委員

指標とは別に私たちならではの思いを組み込んで評価していいということか。

政策推進課長

そのとおり。

グループ長

反証材料がないから（庁内評価と同じ）Cというわけではなく、皆さんのご意見を承りたい。

委員

農村地域に住んでいる。芽室の駅前という視点で見ていると、何が本通なんだろうと。どうしてこんなにお金をかけたり、みんなで色々な議論をしているのか。話をしているわりにあまり変わらないなど。私が小さいころは駅前はお店だけで人がいっぱいいたが、今からお店をいっぱいいたてもあの頃に戻るのは無理だと思う。この辺は昔からお店をやっている人がいるので、よそから芽室町に住んだ人と話してみると一見さんお断りのような通りに見えると。ダイイチさんやツルハさんに行ってしまうというのは当然のことだと思う。「おいしかったら車に乗ってでも行く」というのが今の購買スタイル。

情報をたくさん発信すれば、何も駅前に集中しなくても、中心部だとか商店街の発展をもう少し広い観点でやってもらつたらいいのでは。

商工労政課長

人によって受け止め方・見方はそれぞれ非常に難しい。実態として委員のおっしゃることもあるのかなと。その辺も含めて、中心市街地の議論を検討していきたい。活性化という点では、ここ3~4年ぐらい中心市街地でないところに新規のお店ができたり、そういうところに目的をもってお客様が来てくれている実態もある。この町の規模で、ここ数年の出店数・新規企業数は悪くない数字だという専門家のご意見もいただいている。そういった活力・魅力もあるので、中心市街地の定義も含め議論していきたい。

委員

中心街で頑張っているお店もいっぱいあるので そういうお店を応援できるようなスタイルにもしていってもらえたたら。

グループ長

他に評価に対する意見はあるか。

(特になし)

特にご意見なければC前進したでよろしいか。

(異議なし)

C評価とする。

⑥地域資源を活用した観光の振興

魅力創造課長

«事前に受けた質問・意見に対する回答»

観光客の入込客数についての管内の前年対比について。芽室町は対前年比87.9%で-12.1%。十勝全体では対前年比68.9%、-31.1%。要因はコロナ禍におけるものと推測している。数字としても過去最低の入込客数。自治体ごとの状況は、入込客数が多い順に、管内1位は帯広市で前年対比49.9%(-50.1%)、2位音更町63.1%(-36.9%)、3位中札内村68.5%(-31.5%)、4位上士幌町132%(+32%)、5位幕別町111.7%(+11.7%)。上士幌町は道の駅ができたことが要因。管内で対前年比がアップしているところ5つある。ただし、たくさん観光客が入っているところが激減していることで十勝管内全体では減少している。入込客数の多い観光地は、1位中札内道の駅、2位上士幌道の駅、3位士幌道の駅、4位本別道の駅、5位十勝川温泉。芽室町はその中でも-12.1%。実数字そも

そもそもそれほど高くなく、管内 12 位の位置。

魅力創造課参事

国交省の基準で、前年観光入込客が 1 万人以上、例えばイベントなどで月 5,000 人以上というのが基準。幕別については、忠類の道の駅が年間 1 万人を超えたので新たに基準になった。上士幌も年間 1 万人を超えたので R2 年度から基準になったので今回順位が上がっている。芽室は愛菜屋と嵐山と氷灯夜。

委員

上士幌はふるさと納税すごく大きいが、芽室町のふるさと納税の中身の見直しをする予定はあるのか。「寄附単価額が下がっている」という残念な文言があるが、芽室に寄附したいと思わせるように中身を見直すという予定は。

魅力創造課長

P.12 の 5 にふるさと納税の寄附件数（金額）の増加を目指すと記載しているが、具体的には、すべての出品事業者とヒアリングをしながら、町は何を求めているのかをしっかり説明して回っている。単に町の税収を増やしたいというのではなく、売る方・もらう方・町の三者がみんな幸せになるというのがきちんと説明できていなかったので「軒」軒丁寧に回っている。その中で、新たな提案をいただいて、新たな魅力的な商品を出していただいたり、町内の物産のコラボ商品（例えばワインとチーズなど）といった会社をこえて商品を組み合わせたセット商品、定期宅配など、新たな商品や他の自治体でしっかり実績を出しているものはチャレンジしていく。結果はまだ出てこないが、着実に新たなことを初めて結果を出していきたい。

委員

道の駅について。私も十勝管内の道の駅に行くが、わが町芽室町にもほしいなという強い思いがある。清水とか新得とか道の駅について前向きに考えていたり、音更町は来春リニューアル予定。芽室町はいかがか。

魅力創造課長

今現在計画はない。理由は色々あるが、まずは収支がとれるかどうか。北海道（の道の駅）は儲ける方策が何かを売るしかないが、芽室町の特産品は野菜。生鮮の物で保存がきかない冬をどうするかが大きな課題。今後 6 次化が進む中で、通年で販売できる加工品、例えば野菜スープなどの商品がラインナップされれば売れるので、（そうなれば）検討することになるかもしれない。他の課題としては、どこに建てるかというところで、芽室町の場合は中心市街地が通過される可能性が非常に高く、町内経済の循環が

難しいという課題もある。慎重に検討しないと疲弊していく可能性もある。常時色々情報を聞きながら考えていっている流れである。

委員

嵐山のキャンプ場について。パークゴルフ場減らされたが、まだ今後キャンプ場を増やす予定はあるのか。

魅力創造課参事

キャンプ場自体は今のスペースから増やす予定はない。現状はキャンプする人もいればパークゴルフする人もいる。活用計画では町民がいつでも気軽に楽しめる場所でもあってほしいということで、ハンモックフォレスト等も作っており、今のところパークゴルフ場縮小はしたがこれ以上なくすることはない。キャンプ場も、今のエリアで新しい生活様式にのっとった形で受け入れをしていこうということなので増やす考えはない。

委員

嵐山について。近年 SNS 等で色々発信していただいて、嵐山がいろんな形で変わっていく様子は分かるが、先ほど道の駅収支があるので簡単に進められないということが、嵐山の収支の見込みは、コロナが収まつたら 回復が見込めないとあるが、回復の見込みが想定できるものなのか。単純に言えば儲かっているのという話。

それと、旧キャンプ場施設の活用をどう考えているかを質問したい。

魅力創造課参事

嵐山の近年の収支。残念ながらこの2年間赤字。それ以前は黒字で運営。今回はたまたまコロナと自然降雪が少なくて、スキー場のオープンが遅れたり、人工降雪機フル稼働で経費がかさんだ。コロナに関しても、コロナだからとあきらめているのではなく、キャンプの事業を強化したり等、経営を上向きにするようにしている。来年ある程度コロナのワクチンを接種した中で、ある程度利用されるようになれば収支は上向くのではないかと考えている。

旧キャンプ場については、活用計画では色々な魅力を高めるために宿舎を含め周りの取り組みを中心にと考えている。旧キャンプ場については、行政としては手を付ける予定はない。ただし、民間活力ということで、民間が私たちが作った活用計画に基づいて何かトライアルしたいということであれば検討していきたいと考えている。

委員

スキー場利用させていただいたが、町民でも料金設定が高い。嵐山リゾートという名前になっているが、トマムリゾート、富良野リゾートとリフト料金がほぼ同じ料金。あの

規模からしたら、せめて町民には還元できないかと。早割のリフト券でも非常に高い。値段設定がもう少し低ければ、町民還元して、「雪のない時期でも嵐山を維持するためには仕方ないかな」と購買してくれるかなと思うがいかがか。

魅力創造課参事

料金設定について、高いか安いかはあくまでも個人の感覚。当然ながら安く設定すれば、それだけお客様を来ていただいて、お金を落としてもらわないと経営を維持できないというリスクもある。最近町として考えているのは、これだけ自然降雪が少なくなっている段階で、いつまでもスキーだけに頼っているのでは経営も難しくなっていくということで、スキー以外のノンスキーヤーの方に来ていただける取り組みや冬のキャンプ等、色々トライしていきたい。料金体系については、この場ではご意見として承る。

委員

成果指標①と入込客数を設定しているが、コロナをふまえてこの数字になっているのか。十勝管内の中で芽室町の入込数は多い方ではないが、今後増やしていく考えはあるのか。それでいくと、北海道の方でも観光客の入込客数の目標を出していくと思うが、道と同じ角度で目指すのか、目標の立て方について教えてもらいたい。

魅力創造課長

入込客数は、計画した時がコロナ前なので、コロナを見据えていない。現状の数字は2020年度から推測して上向きの妥当値をついている。成果指標についてはお客様の数を主眼にしてるが、結果としては、必ずしも客が来ればいいというのではなく「発信される、人口増で消費の拡大つながる」としているので、単にランドマークを見に来るという昔ながらの観光ではなく、新たな商品を開発したりとか、そこに人がきて買い物をして、リピーターが来てというような新たな観光の方策を目指したい。

委員

発信についての具体的な今後の取り組みについて伺いたい。

また、P12の4で「回復後にスタートダッシュできる状況づくりが必要」と記載されている。お客様を連れてくるだけでなくしっかりお金を使ってもらうには、泊まつてもらうのが一番単価を使うと思うが、泊まつていただくことに対して取り組みを考えているのか。あるいは、商品をラインナップして日帰りでも買っていってもらうという方針なのか。どうお金を使ってもらうかについて伺いたい。

魅力創造課長

発信については、新たにホームページを作る等ではなく、既存の公式ホームページや

Facebook など SNS を活用していきたい。役場は色々な課があり、特に Facebook は各課で共有しているので情報がしぶりづらいという課題がある。インスタグラムについては魅力創造課で集約しているので、集約して HP をリンクしながら情報発信を進めていきたい。SNS 時代になってきている中で、行政だけが発信をするのではなく、お客様から発信してもらうことも積極的に意識し、#芽室町等発信していただきたいと考えている。また、よそから来た人だけでなく、町民の人にも自ら発信していただくということも意識している。そのためには、芽室町の魅力だったり芽室町は良いところというところを意識していただきたいので、外向きの政策（発信）と、内向きの政策を行っていきたい。コロナ回復後の状況づくりについては、コロナ前はインバウンドの方もそれなりにいて、嵐山は台湾からのお客様も多かった。当時は次のステップとして、帯広や音更に来る方に周遊しながら芽室にも寄ってもらおうと考えていたが、コロナ禍でぐっと減ってしまった。コロナ前と同じ状況にはならないにしても、いつかまたできるような時代は来るであろう、あるいは国内の方や国内の海外在日の富裕層が来るような想定をしながら、対応できるような状況づくりとして、国の交付金などを活用しながら新たな実証実験をしてしっかりプラットフォームを作って、きたるべきところに向けていつでも動けるように準備を着々と進めている。

委員

最後に意見を。発信に関して。アジアの方が過去に来ていたというように、SNS の発信もインフルエンサーをいかに活用するかもあると思うが、芽室町の広告塔となると手島町長。先日 Facebook で町長の発信している姿を読んだが、アジアの人に見てもらえるように外国語の表記等も必要かと思う。プラットホームという話もあったが、ぜひ積極的に。お金の使い方の中で、泊まるというのが 1 番滞在時間も長くなりお金も使っていただけるので、嵐山に限らずそういうことも検討していただけたら。

グループ長

施策評価にうつりたい。P.11 の 3. ①で、コロナの影響もあり成果は低下したという結果。ただ、③事業全体の振り返りでは、寄附金額が増えていたり、新嵐山スカイパークについても色々な取り組みをされている。特に、嵐山については、入込客数や経営が赤字という話はあったが、話題性や知名度といった点では高まったのではないかと、私見として持っている。単に上がったのではなく、町全体として取り組んでいたプロセスもあったと思った。今回、担当課の評価および庁内評価は、観光入込客数実数とコロナの影響も含めて自己評価 D となっているが、私は C 評価でもいいのではないかと思った。皆様の意見を聞いてみたいのだが、いかがか。

委員

魅力創造課の発信で嵐山については、SNSで色々なプランを出している。コロナが原因でこの数値になっているが、コロナでポジティブになるための案ということで色々なことをされていると思う。そこに観光物産協会のHPにリンクが載っていないのがもったいないと思うが、22年度は連携を図りたいというのも出たことや、色々な方面で（取り組みを）やられているのは感じていたので、私もDではなくCでと思っている。

委員

大手旅行サイトじゃらんで、十勝管内の宿を探すと、84件中嵐山は50位くらい。得点が高いところは、感じの良さやホスピタリティが高いといったソフト面。嵐山はハード面は整いつつあるので、ソフト面が良くなれば上がってくると個人的に思う。本州からくると、十勝全体のホスピタリティはあまり良くないと感じるので、そこを逆手にとつて教育に予算を入れてやると。以前観光業をしていたが、インバウンドについては諸刃の剣で、入れることによって荒れる危険性もある。拡大路線にするのか、町民の方がどう思うかが重要かと思う。

委員

嵐山の開発等、理想は高くそこに向かっていっているのもよくわかる。コロナというのも考えたら、良いか悪いかは別として色々止まらずやっているという印象。私もDからCの判定でもいいのではという意見。

委員

私は反対の印象。「C前進した」というのは私の中ではかなり進んだという印象。心情としては応援したいのでCと考えたいが、実際は、発信は海外のものに欠けていたり、数値は目標に達成できていないことを考慮してD。府内評価も、外部要因を考慮してほっといたら後退していた部分を現状維持で踏みとどまつたという読み方なのかと解釈した。なので、Dの方が、コロナ禍で下がって当たり前のところを維持したというのでプラス評価と理解している。もう1つは、（評価の視点で）他の市町村と比べてどうかという点も考慮すると、おしなべて全滅だったら別だが入込客数が増えているところもあるので、心情はCだが、Dは妥当かと思う。

委員

本当に頑張っているので気持ちとしてはC。ただ、色々説明を聞いたが「こうしたい」というものが多くて、「こういうふうにしました」「こうなりました」というものはない。コロナ禍の中で大変な中で頑張って、下がらず維持したというのは、今のところでは「D維持した」で最高の評価かなと思う。本当はCにしたいが、あえてDと考えている。

グループ長

真っ二つに割れた形。Dの意見の方も来年に期待というところや、大変な中でよくDで留めたという意見がある中で、今後の期待も含め、すごく評価しているというコメントも含め、自己評価の通りDでよろしいか。

(異議なし)

D評価とする。

グループ長

以上で本日の議事がすべて終了した。今後のスケジュールについて、事務局より説明をお願いする。

事務局

資料に沿って説明。

グループ長

今の説明に関して何か質問や意見はあるか。

(質問なし)

それでは、これで本日の専門部会を終了する。